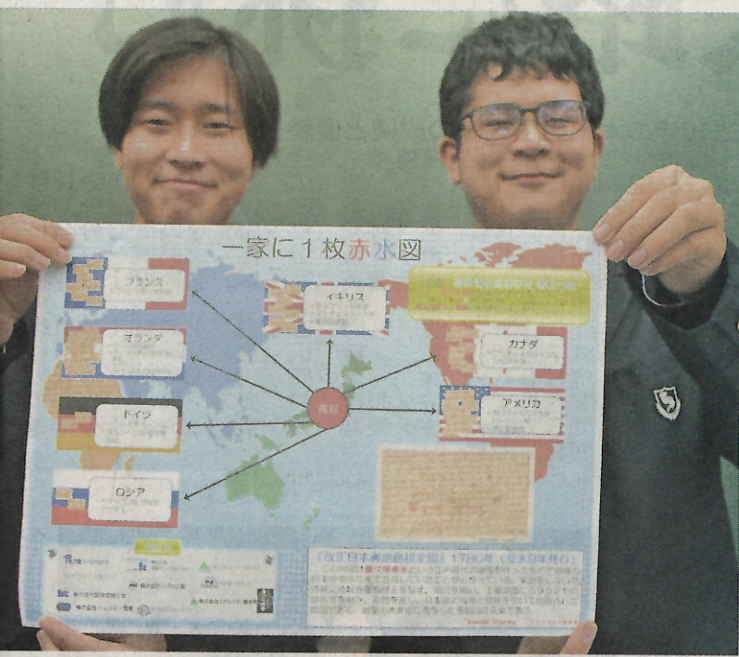


高萩清松高 1 年生が制作



完成したポスターと制作に携わった生徒たち＝高萩市赤浜

赤水の功績ポスターに

高萩市出身の地理学者・長久保赤水（1717～1801年）を市民に広く周知しようと、県立高萩清松高（同市赤浜）の1年生が赤水にちなむポスターを制作した。赤水が作った地図が世界中に分布して7カ国の博物館などに所蔵されていることや、地図の大衆化に寄与した赤水の功績を盛り込んだ。ポスターはA3判で約6800枚作成。21日付の新聞朝刊で高萩市内6550世帯に折り込む予定。高校生が自ら発案し、資金集めに奔走したプロジェクトに、長久保赤水顕彰会も歓迎するなど、市民の共感を呼びそつだ。

赤水は江戸時代に、同じく地理学者の伊能忠敬よりも前に、経緯線の入った日本地図「改正日本輿地路程全図」を完成させた。江戸時代に国内で最も普及した地図だった。配布するポスターの名称は「一家に一枚赤水図」。企画物や歴史を調べていたとこ

郷土の偉人、家庭で発信

ろ、郷土の偉人である赤水に目を付けた。

赤水に関するポスターを配ることで市民一人一人を「赤水のPR大使」としての発信源にしようと考え、同級生の鈴木日陽さん（16）と小針和真さん（15）を仲間引き入れ、7月から本格的に活動を開始した。

手始めに市内のスーパーで赤水の認知度を調査。資金面では、庄司さんが市内に本社がある企業を回り、ポスターの印刷費などに協力してくれる協賛企業11社を集めた。制作に当たって3人は放課後に集まって、デザインの構想や全体の構成を練った。デザインツールを使って制作に取り組み、11月末に完成した。

ポスターには、当時赤水図がアメリカやロシア、イギリスなど世界中に広まっていた様子を表現。世界地図をベースにすることで、一目で分かるように工夫した。

庄司さんは「（各家庭で）家族みんなが見えるところに貼ってほしい。ぜひ一緒に赤水を全国に広げてもらえたら」と呼びかけている。

長久保赤水顕彰会の佐川春久会長は「若い世代が赤水に関心を持ち、普及のために動いてくれたことがうれしい。高萩から全国に広がるきっかけになれば」と力を込める。

敏美市長ら市執行部との意見交換を行った。

メンバーは、モンゴル・ウブルハンガイ県の学校長が中心で、中等教育の質の向上を目的に訪日。7日に

情報の見極め方学ぶ

古河・三和東中 TV局職員、出前授業

古河市立三和東中（同市尾崎、荒井幸枝校長）で12日、情報への接し方を考える出前授業が行われた。全校生徒約180人は身の回りにあふれる情報の真偽を見極め、どう役立てていくのかを学んだ。

講師は日本テレビ職員の林恭子さんと国田優子さんが務めた。林さんは、ネット上の閲覧数を増やして広告収入を稼ぐ「アテンショ

その上で「ニュースは事実が大事。そのことを知っている人に直接聞く。一次



ニュース原稿から一次情報を採る生徒たち＝古河市尾崎

情報を取りに行くのが取材」とし、生徒たちはニュース原稿や新聞記事から情報源を探し出す練習をした。林さんは「情報は判断

（小室雅一）